

令和7年12月11日

武豊町長 烏羽 悠史 様

武豊町総合計画審議会
会長 千頭 聰

第6次武豊町総合計画後期基本計画について（答申）（案）

令和7年7月22日付け武企発第1025号で諮問がありました第6次武豊町総合計画後期基本計画について、本審議会で慎重に審議した結果、これを妥当と認め次の意見を付して答申します。

併せて、計画が着実に推進されることを要望します。

記

1 人口減少、超高齢社会が進展する中、武豊町に住み続けたい、住んでみたい、働きたい、と思われる、魅力あふれる「選ばれるまち」を目指すこと。

とりわけ、今後の武豊町の将来を担う「こども」の主体性を育て、達成感や幸福感を高めていくことは重要であり、「こどもまんなか社会」の実現に向けた施策を推進すること。また、町民、特にこどもや子育て世代、若者がまちづくりに関わる機会を増やす施策を推進すること。

2 少子化の進展や人口減少による財政状況のひっ迫や行政サービス低下の懸念に対応し、持続可能な行財政運営を行うため、業務のデジタル化やDXの推進等の行政改革を積極的に進めること。

また、グローバル化や価値観の多様性が進む中で、年齢や性別、国籍に関りなく繋がりを持ち、それぞれが活躍できる共生社会を目指した施策を推進すること。

3 デジタル化を推進する一方で、山車、豆みそ、たまりといった武豊町の伝統文化を守るとともに、様々な文化的体験による心豊かなまちづくりの推進や産業基盤の強化、シビックプライドの醸成を図ること。

また、住民、地域、企業、団体、行政があらゆる分野における、協働のまちづくりをさらに推進するための環境づくりに努め、協働の意識醸成や取組の促進につなげること。

4 区や地域活動等の重要性を周知し、人と人の繋がりを強めていくための施策を推進すること。

特に、南海トラフ地震や猛暑、集中豪雨といった自然災害の危険性が指摘される中、公助はもとより地域における共助、自助の強化を行い、平時から連携することで、災害への備えと安全性の確保を推進すること。

5 まちの将来像「心つなぎ みんなでつくる スマイルタウン」の実現に向け、行政は部署間の隔たりを超えて、全庁を挙げて組織横断的に計画の推進に取り組むこと。また、関連計画の策定や見直しにあたっては、総合計画との計画期間と内容に整合を図ること。

更に、毎年度、施策及び重点施策方針の評価により、業務の改善を継続的に図ること。また、実施計画により具体的な施策を公表することで、総合計画の進捗状況やその内容を住民にわかりやすく伝えること。

以上